

# 市議会だより

## ■ 9 月定例会

9 月 11 日～10 月 1 日

第72号

令和元年11月15日



発行・下田市議会 編集・議会だより編集委員会 〒415-8501 下田市東本郷1丁目5番18号 ☎ 0558(22)2220〈直通〉

## 寝姿山自然公園からの眺望



### 9 月定例会の主な議題

■ 幼児教育・保育の無償化が始まりました！

■ 台風第15号被害に係る補正予算(被災復旧経費)可決

## 9月定例会総括

月1日から幼稚園、保育所、認定こども園などの3〜5歳児クラスの子どもの保育料が無償化となります。

下田市議会9月定例会は9月11日から10月1日までの21日間を会期として開催されました。9月8日から9日にかけて被害をもたらした台風第15号の影響により、施設の損壊、道路への土砂流入や倒木、停電等の被害を受けました。これに対し9月13日に台風第15号による被災復旧経費として5200万円の補正予算が追加提案され、原案可決となりました。

決算認定10件については決算審査特別委員会にて審査が行われ、全会一致で認定されました。更に報告議案2件、契約議案1件、条例議案5件、補正予算10件合わせて28件の提出議案の審議が行われました。

### 総務文教 委員会

委員長 滝内久生  
副委員長 渡邊照志  
委員 鈴木 孝 矢田部邦夫  
進士濱美 大川敏雄  
沢登英信

### 条例関係

■議第58号 子ども・子育て支援法等の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

幼児教育・保育の無償化のための子ども・子育て支援法等の一部改正に伴い、無償化に関連する5本の条例を一括して改正するものです。

主な改正内容は、本年10月1日から3〜5歳児クラスの保育料及び住民税非課税世帯の0〜2歳児クラスの保育料が無償となる他、給食副食費

が軽減されるものです。

■議第59号 下田市家庭の保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

家庭的保育事業等に関する国の基準が改正されたことに伴い、連携施設（幼稚園・保育所・認定こども園）確保義務の緩和や食事提供に関する経過措置の延長などの改正です。

■議第61号 下田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

有権者の投票環境の向上を図ることを目的に、投票管理者の選任要件を緩和し、交替で事務を執行できるよう公職選挙法施行令が改正されたことに伴い、投票管理者の報酬の額を職務時間に応じて按分して支払えるよう条例改正するものです。

■議第62号 下田市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

る法律等の改正に伴い、所要の改正をするもので、本条例では規定する災害による被害を受けた世帯の世帯主に対し、生活の立て直しに資するため、災害援護資金の貸し付けをすることが「災害救助法の対象となる大規模災害時」出来るとしています。今回、貸し付けについては、従前は保証人を立てる必要がありました。保証人を立てなくても貸し付けをすることができるよう改正されるものです。加えて保証人を立てる場合と立てない場合とで貸し付け条件（利率）に差が設定されました。

審査の過程で、下田市の災害弔慰金は近隣市町に比べ大きな差異が無いことが明らかになりました。

### 令和元年度下田市 一般会計補正予算

#### \*総務課

#### ■財政調整基金

3億3800万円  
平成30年度決算の歳入、歳出差引額6億7555万5千円の一部について、財源不足

を補うための基金である財政調整基金に積み立てるものです。

■減債基金 1億4千万円

平成30年度決算の歳入、歳出差引額の一部を市の借金である地方債の返済を計画的に行うための基金に積み立てるものです。

#### \*防災安全課

#### ■防災対策総務事務

916万4千円  
主なものは、防災用備品の購入費で、代替本部用防災倉庫1棟、パソコン4台を購入するものです。

#### \*福祉事務所

#### ■母子家庭等援護事業

274万円  
主なものは、母子生活支援施設等措置費で、DV被害等を受けた母子に対する措置費です。

#### ■生活保護費支給事業

9890万4千円  
生活保護の扶助費には、医療扶助、介護扶助、生活扶助等があります。今回の補正は今後予想される医療扶助費の増加に対応するための増額です。

# 産業厚生 委員会

委員長 進士為雄  
副委員長 江田邦明  
委員 中村 敦 佐々木清和  
小泉孝敬 橋本智洋

## 条例関係

■議第60号 下田市印鑑条例  
の一部を改正する条例につ  
いて

社会において旧氏を使用し  
ながら活動する女性が増加し  
ている中、様々な活動の場  
面で旧氏を使用しやすくなるよ  
う、氏の変更があつた者の旧  
氏を住民票等へ記載する取扱  
いが開始されたことに伴い、  
住民票に旧氏の併記を求めた  
者の印鑑登録証明書について  
も、旧氏を併記する必要がある  
ため、本条例を改正するも  
のです。

また性的マイノリティへの  
配慮の一環として印鑑登録証  
明書への性別記載を廃止する  
ものです。

## 令和元年度下田市 一般会計補正予算

9月定例会の補正予算は、  
事業費の確定及び人事異動に  
伴う事務費等調整予算が主な  
ものでした。その中でも、事  
業実施等に係るものは次のと  
おりです。

### \*市民保健課

■戸籍住民基本台帳事務

136万7千円

この事業の主なもの、コ  
ンビニ交付本籍地通知作成業  
務委託102万8千円で、下  
田市外に住所のある下田市本  
籍の方6344世帯に対し、  
コンビニニを利用して戸籍証明  
書が取得できる旨の通知を行  
うもので、併せてふるさと納  
税PRチラシを同封し、郵送  
するものです。

### \*環境対策課

■ごみ焼却施設長期包括業務  
委託料（債務負担行為）

事業予定額8億8千万円の  
範囲内でごみ焼却施設の長期  
包括業務の委託を令和元年度  
において締結し、令和2年度  
以降支払うものです。

このことについて、ごみ焼却  
施設を民間に委託することは、  
行政として無責任ではないか  
との反対意見がありました。

それに対して、行政の仕事  
は多様化し、新たな仕事への  
取り組みも多く、民間ででき  
ることは民間で行うべきとの  
賛成意見がありました。

■焼却場管理事務

5034万3千円

この事業の主なものは焼却  
場修繕費4951万8千円で、  
当初予算については、誘引送  
風機が故障し、その修繕に充  
てたため、今後予定している  
冷却水配管修繕等に充てるも  
のです。

毎年多額の修繕費が必要と  
されることから、新設の必要性  
についての意見がありました。

■環境衛生事業 38万3千円

この事業の主なものは、猫  
不妊去勢手術費補助金36万円  
で、当初同額の予算が計上さ  
れていましたが、8月末で52  
件と想定を超える申請があり、  
補正するものです。

### \*産業振興課

■地場産材伐採・加工業務委  
託料（債務負担行為）

令和元年度から2年間の事  
業で、須原地区市営分収林か  
ら木材の伐採・搬入を今年度  
行い、来年度は不燃処理等の  
加工をし、新庁舎建設におい  
て議場及び2階待合所の天井  
ルーバーに地元産材を活用す  
るため加工業務を本年度90  
6万4千円（事業予定額287  
7万4千円）で行うものです。

■漁港小規模局部改良事業

1110万円

この事業の主なものは、令和  
元年6月23日災で被災した田  
牛漁港・田牛港線の法面に対  
して、落石防止柵延長31mを  
設置して安全を図るものです。

### \*観光交流課

■観光施設管理総務事務

1191万5千円

この事業の主なものは、雁  
島吊橋改修工事841万5千  
円で支柱や床板などの改修  
に充てるものです。

この事業に関して、雁島の  
周遊通路の手すり等の修繕や  
日頃の定期点検の必要性の議  
論がなされました。

### \*建設課

■道路維持事業3100万円

■河川維持事業 700万円  
■排水路維持事業300万円  
いずれの事業も地区要望に  
対応するため、修繕費及び工  
事費について増額補正するも  
のです。

■都市計画マスタープラン推  
進事業 797万8千円

この事業の一部である旧下  
田町地区駐車場整備工事43  
0万円は、照明灯の設置等を  
行うものです。この事業の設  
置管理条例について、当局か  
ら概略説明がありました。

## 決算審査 特別委員会

委員長 沢登英信  
副委員長 進士為雄  
委員 江田邦明 中村 敦  
鈴木 孝 渡邊昭志  
矢田部邦夫  
佐々木清和

◎平成30年度の決算規模は歳  
入総額110億8825万5  
20円、前年度比3.6%の増、  
歳入増の主なもの、地方交

付税6630万3千円、2.4%の増、市債1億7320万円、25.9%の増です。

歳出総額104億217万356円、前年度比3.7%増、

歳出増の主なものは、新庁舎建設関連費、光ファイバ網整備事業補助金、中学校再編整備関連事業や教育用パソコン購入、避難路や避難場所の防災設備改修と小学校の空調設備設置工事設計業務、更に宮渡戸橋架替工事、ゆのもと橋耐震補強工事等、大型事業の増によるものです。

◎新庁舎等建設事業では、平成29年度に債務負担にて下田市新庁舎建設設計・工事監理業務の委託が行われました。平成30年度においては、新庁舎建設設計監理等業務委託（債務）9425万9700円で執行されましたが、更に新庁舎建設基本設計再構築業務委託1792万8千円の支出が必要となりました。

◎公共交通推進事業では、平成30年10月から稲梓地区において自主運行バスに代わってコミュニティバスの運行が行

われ、半年で4178人の利用がありました。更なる利便性の向上を求める議論がなされました。

◎地域振興事業のWi-Fi施設設置工事1730万2680円では、災害関連情報の提供、緊急事態時の重層的なインターネット接続手段を提供し、また、平時においては、住民や観光客等の利便性の向上を図ることを目的として市内14か所にアクセスポイントが設置されました。

◎地域振興事業のみなとまちゾーン活性化推進事業実行委員会負担金500万円全額と企業誘致推進事業（仮称シモダ大学）409万円の内320万円が、補正予算によって減額されたことにより、当初予算の編成について疑義が残りました。

◎市税6税目の収入額は、28億6609万8368円で前年度比1.7%、4933万5849円の減となりました。軽自動車税は台数が増加傾向にあり、調定額（現年）は7

159万7200円で前年度比2.4%、165万1800円の増でした。また、市たばこ税は売上本数の減少により、調定額は1億8076万4717円で、前年度比3.5%、658万7932円の減と大きく変化があり、他の税目は前年度と比べ微少な変化でした。

◎平成29年12月に防犯灯1594基をLED化しています。平成30年度の防犯灯の電気料は540万8834円が支出されており、平成29年度の電気料は、627万9941円です。平成30年度と単純比較すると、87万1107円の減となり、電気料の改善がみられました。

◎防災施設等整備事業において、津波避難施設整備工事（敷根避難路、小山田避難路）により4036万2840円で整備されました。また、浜崎小学校に60mの耐震性貯水槽を6999万4800円、非常用トイレを896万4千円で整備されました。



災害非常用トイレ【浜崎小学校】

◎防災対策総務事務において、避難誘導標識を755万2800円で14か所、蓄光案内看板を461万5920円で21か所の避難場所に設置、防災倉庫が502万2千円で浜崎小学校、みくらの里及びセレモ二ーたかはしの3か所に設置されました。

◎社会福祉法人下田市社会福祉協議会は市から委託を受け、地域福祉活動計画推進事業の主要な担い手となっています。福祉会館ふれあいサロン、災害ボランティア本部活動等の事業を行っており、本年は1879万4千円の補助金が出た。田市から交付されていますが、人件費補助を含め、その増額の必要性について議論がされ

ました。

◎災害時要援護者支援事業については、災害対策基本法の一部改正により、高齢者や障害者等の災害発生時の避難等に支援を要する方の名簿（避難行動要支援者名簿）の作成が義務付けられ、平成27年度に導入、平成28年度から運用が開始されました。

情報の外部提供について同意、不同意の確認をしており、その活用の議論がなされました。

◎平成30年度の生活保護被保護者は318世帯、370人、保護率は1.72%で県下23市中2位です。扶助費総額は5億8328万8376円、延べ4411人に支給されています。就労者支援や総合的な相談窓口の充実を求める議論がなされました。

◎ドクターヘリの活用は、平成30年度74件の利用がありました。夜間飛行の要望が多くなっている現状において、様々な要因により実現が難しいと

の医療、道路状況を勘案し、夜間飛行の早期実現を求める議論がなされました。

◎順天堂大学医学部附属静岡病院直通バスの運行時間帯を利用者の利便性に合わせるよう調整がされました。更なる利便性の向上を求める議論がなされました。

◎下田メディカルセンター・順天堂大学医学部附属静岡病院・伊豆今井浜病院・西伊豆健育会病院間の電子カルテ共用が、令和元年度から実施されることになりました。医療機関の情報共有化が実現し、重複医療の軽減や受診者の利便性が向上することになります。

◎ごみ収集量は全体で9515トとなり、リサイクル収集量も含め減少傾向にあります。引き続き、古紙、アルミ、スチールや粗大ごみなど、リサイクル意識の向上の取組みと処理方法等についての検討が望まれます。

◎PFIアドバイザー業務では、南伊豆町、松崎町との

広域ごみ処理計画及び下田市独自のごみ処理計画についてアドバイスを受けました。平成30年度も修繕料で3552万2699円、改修工事費で5899万3320円と前年度に引き続き高額な費用が発生しており、早期に将来に向けたごみ処理施設の建設計画策定が求められます。

◎美しい里山づくり(2名)、中心市街地の活性化(1名)、オリーブのまちづくり(1名)に対して、それぞれ地域おこし協力隊員が活動しています。3年間の期間を終えた隊員も含め、地域振興と定住化に対する成果が確認されました。

◎耕作放棄地の活用と新たな特産品づくりを目的とするオリーブのまちづくり事業は、オリーブのまちづくり事業推進計画を策定し、令和3年度までを栽培方法や新たな商品開発を研究する導入期としていますが、耕作放棄地の改善が見込まれない現状において、事業の見直しを含めた検討が望まれます。

◎農村体験宿泊施設「あずさ山の家」の施設利用者は3万4479人で、前年度より2908人利用者が増加しています。しかしながら次期指定管理者は決まっておらず、施設の使用目的も含め、管理方法の検討及び適切な運営が望まれます。

◎漁港管理事業は、浚渫など適正に管理が行われています。しかしながら夏期において板見漁港では、無許可でのバナナボートの利用が確認されており、安全等の確保のため、不正利用者に対する立ち入り禁止の措置が求められます。

◎外国人観光宿泊客数は7921人で前年度比24.2%の大幅増であり、伸びしろのある実績となっています。さらに外国人旅行者の誘客推進と対策が望まれます。

◎海水浴客の推移では、平成30年度49万6100人は、前年度比15.8%の減、前々年度比24.3%の減と落ち込みが顕著であります。しかし平成30年度に主要ビーチに設置したインターネットでライブ中

継するビーチライブカメラ5か所のチャンネルには多くの登録者があり、下田のビーチへの人気と関心の高さを示しています。老朽化したトイレ等の改良や、多様化されたニーズに対応できる海岸整備が求められます。

◎板戸プールにおいては、長年の放置状態が続くことから、安全性と景観についての悪影響が懸念されます。撤去もしくは再整備などによる有効利用に向け、地域との議論と実施が求められます。

◎田牛竜宮公園は、遊歩道の再整備と安全確保事業が実施されました。ジオパーク認定を最大限に活かし、さらなる集客が求められます。

◎道の駅開国下田みなとは「世界一の海づくりプロジェクト体験型プログラムしーもん」の受付窓口でもあり、観光客の一大交流施設であります。道の駅機能を充実させ、施設全体のさらなる有効活用が求められます。

◎生活と産業そのものが観光であるという理念のもとに推進する「美しい里山づくり」「世界一の海づくり」「30カラーズ」「美味しいまちづくり」の4つのプロジェクトにおいては、未だ取り組み半ばであり、魅力発信と宿泊客数の増加に結びつくよう一層の取り組みが求められます。

◎道路維持工事は、27件、4993万6520円、河川維持工事は、8件、648万6480円、排水路維持補修工事は、4件、296万8920円、さらに橋梁維持事業においては、ゆのものと橋耐震補強工事1380万円、宮渡戸橋架替工事1億2950万600円をもつて実施されました。今後も地域要望に対して、適切な対応が望まれます。



宮渡戸橋【現地視察】

◎市営住宅維持管理事業は、うつぎ原市営住宅4戸、丸山市営住宅17戸を解体工事費2421万3600円で解体しました。また、老朽化した丸山市営住宅については、上河内市営住宅、大沢市営住宅への転居などが推進されています。

◎中学校再編整備事業の委託料4152万9240円をもつて、新中学校整備に向けての地形測量、地質調査が実施されました。また、新中学校名は「下田市立下田中学校」に決定しました。

◎小学校管理事業において、小学校空調設備設置工事設計業務委託が957万9600円で行われ、市内7校の小学校空調設備設置工事1億6350万円については、年度内の執行が困難なため、次年度へ繰り越されました。

◎NPO法人下田市体育協会に対する補助金は15万5千円で、下田市スポーツ祭委託は16万8480円と少額であります。このことは前年度決算

審査特別委員会で指摘しており、スポーツ祭13種目、下田河津間駅伝競走大会等もボランティアに頼り過ぎで、継続の不安があるため、必要な予算確保に努めるべきであります。

#### 公共用地取得特別会計決算

◎歳入は318万8872円で、主なものは下田市観光協会等への市有地貸付収入であり、同額が土地開発基金繰出金として支出されています。

◎公共用地取得特別会計貸付金は、1億9400万円となっています。下田駅前旧バスターミナル用地及び下田公園隣接地の今後の活用については、旧町内活性化のため、より一層明確にすべきであります。

#### 国民健康保険事業特別会計決算

◎国民健康保険事業は、国保財政の安定化を目指し、平成30年度から県単位化へ移行されました。

県が示す納付金と標準保険料率をもとに、下田市が税率を定めるようになったため、

資産に応じて計算する資産割が廃止されました。所得割、均等割、平等割も見直され、保険料が25%値下げされました。

国民健康保険税の収納状況は、一般被保険者国民健康保険税が調定額7億6602万6982円、収入済額5億3294万9930円、退職被保険者等国民健康保険税が調定額507万161円、収入済額318万971円でした。

#### 集落排水事業特別会計決算

◎田牛地区における使用者戸数は91件で、ここ数年の変動はありません。使用料は265万7501円で収納率は100%です。下水道使用料（月額）と比較すると基本使用料で100円、超過使用料で1㎡あたり20円安い単価となっているため、使用料の公平性が求められます。

#### 下水道事業特別会計決算

◎平成30年度中の接続戸数は18戸、接続人口は69人であり、

下水道整備計画エリアにおける水洗化率は70.8%となりました。未接続者の理由として

は個々の経済的理由が挙げられます。さらに接続戸数を増やすために、事業所の接続を推進し、収益の増と海岸の水質保持に努めるべきです。

◎管渠築造事業では5555万8320円の工事費による整備の結果、計画面積319.3haに対して89.5%の整備率となり、供用開始面積は285.72haとなりました。

◎下水道施設等更新事業では、委託料4340万1960円、工事費4025万4840円をもつて、総合地震対策計画に基づく管路施設耐震化工事が実施されたほか、武方浜ポンプ場の耐震補強に向けた実施設計業務が委託されました。

また、下水道施設全体の点検・調査の方針及び点検・調査結果に基づく施設の改築等に関する対策内容や対策時期等を定めた「ストックマネジメント計画」が策定され、本郷地区のマンホール蓋取替工事が実施されました。

#### 水道事業会計決算

◎事業収益は、6億4745

万6806円で前年度比12.93万9527円、2.0%の減、事業費用は、5億8155万1022円で前年度比898万2412円、1.6%の増でした。この結果、経常利益が6590万5784円、当年度純利益が6590万5784円でした。

経営状況は現状では健全であり、人口減少による収益の減は進むものの、平成30年度に策定した「経営戦略」においては、向こう10年は値上げの必要がないと試算されています。

◎災害時における停電については、送水ポンプの稼働に発電機等での対応が必要となりますが、平成30年度においては、停電時に特に断水が発生することがなかったとの報告でありました。ライフラインの確保は重要であるため、今後も万全な対応を望むものです。

◎資本的支出の主なもので、新武山配水池造成工事（繰越）ほか9件の配水管改良工事等

が2億2347万9232円で実施されました。この中で、平成30年度石綿管の布設替が789m行われましたが、未だ約14kmの石綿管が残っているため、今後も計画的に布設替を行うよう求めました。

## まとめ

◎新庁舎建設設計監理等業務委託については、議会の意見を十分に聴取しなかったことにより、追加の1792万8千円の新庁舎建設基本設計再構築業務委託料が発生したことは、深く反省が求められます。

◎当初予算で下田市の柱の事業とされた、みなとまちゾーン活性化推進事業実行委員会負担金500万円、企業誘致推進事業320万円が減額されたことは予算編成執行上、あつてはならない問題であります。

◎浄化槽保守点検業務委託の入札において、前年度の決算審査特別委員会において改善を求めた100円入札に続いて、平成30年度も1円という

異常な低価格で執行されています。適正価格での業務委託をすべきであります。

◎随意契約の一部において、適正に行われていないものがありました。今後は適正な運用が求められます。

◎伊豆縦貫自動車道の建設発生土の有効活用を図る候補地に関し、白浜、柿崎地区建設発生土活用検討業務が、415万8千円で委託されました。

当該地区は自然公園法第2種特別地域で、事前調査で埋め立てするには大変困難であることが把握でき、今回のような業務委託は必要なかった。適正な執行を要望するものであります。



# 9月定例会一般質問

滝内久生（自民クラブ）

（1）下田港湾整備について

（2）ごみ焼却施設の更新について

鈴木 孝（公明）

（1）下田市家具転倒防止促進事業について

（2）下田市における地区防災計画策定の取り組みについて

中村 敦（令和会）

（1）観光戦略／白浜大浜海水浴場健全化と黒船祭開催時期について

（2）洋上風力発電や太陽光発電事業者に対する管理姿勢と方針、市民への情報発信について

（3）空き家バンク／空き家を活用した移住促進について

渡邊昭志（清新会）

（1）伊豆縦貫自動車道建設発生土の埋立候補地の利用について

（2）放課後児童クラブについて

矢田部邦夫（再興の会）

（1）公共施設の修繕対応について

（2）下田市の観光PRにつ

いて

江田邦明（松陰会）

（1）稲生沢川水系および下田港への泥土流出問題について

（2）行政区への加入促進について

進士濱美（かいかく）

（1）過ごしやすい避難所の確保を

（2）下田の町づくりの向かう先について

佐々木清和（再興の会）

（1）白浜の今年の異常な環境と対応について

（2）海と歩く日本一の下田海岸遊歩道について

沢登英信（日本共産党）

（1）白浜大浜海水浴場の不法営業対策と海水浴場の整備について

（2）下田市まちづくり推進プログラムと市役所跡地や中学校跡地等の利用について

（3）パシフィコ・エナジー南伊豆洋上風力発電事業について

（4）下田市民文化会館等の更新計画と消費税の節税について

## 意見書提出

令和元年10月1日に地方自治法第99条の規定により、次の意見書を衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣及び関係大臣等に提出しました。

○地震財特法の延長に関する意見書

## 【お詫びと訂正】

議会だより第71号（令和元年9月6日発行）中、2頁において一部に内容の誤りがございました。深くお詫び申し上げます。次のおり訂正させていただきます。

誤 秘書総務事務650万円

正 秘書総務事務65万円

誤 上大沢区の祭典資機材購入

正 加増野区の祭典資機材購入

## 議会を

## 傍聴しましょう

市議会への（ご意見）要望をお寄せ下さい

## 令和元年 9 月定例会審議結果

| 番 号    | 令 和 元 年 9 月 定 例 会 議 案 件 名                       | 審 議 結 果 |
|--------|-------------------------------------------------|---------|
| 認第 1 号 | 平成30年度下田市一般会計歳入歳出決算認定について                       | 原 案 認 定 |
| 認第 2 号 | 平成30年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定について                  | 原 案 認 定 |
| 認第 3 号 | 平成30年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定について             | 原 案 認 定 |
| 認第 4 号 | 平成30年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定について                 | 原 案 認 定 |
| 認第 5 号 | 平成30年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について               | 原 案 認 定 |
| 認第 6 号 | 平成30年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について                   | 原 案 認 定 |
| 認第 7 号 | 平成30年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について                | 原 案 認 定 |
| 認第 8 号 | 平成30年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について                 | 原 案 認 定 |
| 認第 9 号 | 平成30年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について                  | 原 案 認 定 |
| 認第10号  | 平成30年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定について                     | 原 案 認 定 |
| 報第 7 号 | 平成30年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告について                   | 議 決 不 要 |
| 報第 8 号 | 平成30年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告について               | 議 決 不 要 |
| 議第57号  | 令和元年度（債務負担）デジタル同報系防災行政無線整備工事請負契約の締結について         | 原 案 可 決 |
| 議第58号  | 子ども・子育て支援法等の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について           | 原 案 可 決 |
| 議第59号  | 下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について | 原 案 可 決 |
| 議第60号  | 下田市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について                        | 原 案 可 決 |
| 議第61号  | 下田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について | 原 案 可 決 |
| 議第62号  | 下田市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について             | 原 案 可 決 |
| 議第63号  | 令和元年度下田市一般会計補正予算（第 4 号）                         | 原 案 可 決 |
| 議第64号  | 令和元年度下田市稲梓財産区特別会計補正予算（第 1 号）                    | 原 案 可 決 |
| 議第65号  | 令和元年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計補正予算（第 2 号）               | 原 案 可 決 |
| 議第66号  | 令和元年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第 2 号）                 | 原 案 可 決 |
| 議第67号  | 令和元年度下田市介護保険特別会計補正予算（第 2 号）                     | 原 案 可 決 |
| 議第68号  | 令和元年度下田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）                  | 原 案 可 決 |
| 議第69号  | 令和元年度下田市集落排水事業特別会計補正予算（第 1 号）                   | 原 案 可 決 |
| 議第70号  | 令和元年度下田市水道事業会計補正予算（第 2 号）                       | 原 案 可 決 |
| 議第71号  | 令和元年度下田市下水道事業会計補正予算（第 2 号）                      | 原 案 可 決 |
| 議第72号  | 令和元年度下田市一般会計補正予算（第 3 号）                         | 原 案 可 決 |

## 《賛否の分かれた議案》

（○：賛成 ×：反対 －：欠席）

| 番 号   | 9 月 定 例 会 議 案 件 名       | 江<br>田<br>邦<br>明 | 中<br>村<br>敦 | 鈴<br>木<br>孝 | 渡<br>邊<br>照<br>志 | 矢<br>田<br>部<br>邦<br>夫 | 佐<br>々<br>木<br>清<br>和 | 滝<br>内<br>久<br>生 | 小<br>泉<br>孝<br>敬 | 進<br>士<br>濱<br>美 | 橋<br>本<br>智<br>洋 | 進<br>士<br>為<br>雄 | 大<br>川<br>敏<br>雄 | 沢<br>登<br>英<br>信 | 審 議 結 果 |
|-------|-------------------------|------------------|-------------|-------------|------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------|
| 議第63号 | 令和元年度下田市一般会計補正予算（第 4 号） | ○                | ○           | －           | ○                | ○                     | ○                     | ○                | ○                | ×                | ○                | ○                | ○                | ×                | 原 案 可 決 |

※議長（小泉孝敬）は、可否同数の裁決以外は、採決に加わりません。



## 編集後記

本年度の市内 9 海水浴場の入込客数は日照不足や台風の影響で前年度比 16.69% の減、41 万 3 3 1 0 人でありました。

本年度は、日照不足や台風の影響を否定することはできませんが、昭和 60 年代の百数十万人の客数から年々減少して、ここ数年の 50 万人前後の客数を見れば、単に悪天候と言いつても現実があります。多様化する時代において、夏季の過ごし方が変わってきていることも減少の一因であると思いますが、受け入れる側も時代の変化に添えていないと思います。

海の家やトイレ等の施設、サービスにおいても根本的に海水浴客のニーズを把握して、対応するべきではないでしょうか。

（S）

## 編集委員会

◇委員長 滝内久生  
◇副委員長 進士為雄  
◇委員 渡邊照志

江田邦明  
橋本智洋